

管理論文
2024

はじめての管理論文

- 初めて巡査部長試験を受ける方、必読！
- 警部補、警部試験を受ける方は、基本の復習にも！

はじめての管理論文

1 | 管理論文ってなに？

まずはじめに……

昇任試験は、落とすためのものではなく、「誰を昇任させるか」を判断するものです。

警察組織の期待

「将来の警察を担う幹部を昇任させたい」
「1人でも多く上位の階級に昇任してほしい」

論文試験は、基本4法、実務科目もありますが、管理論文とは、**警察組織の課題・目標について、「幹部として何をすべきか」という切り口で受験者の知識・考え方・意気込みを書かせるものです。**

階級ごとに、求められる答案の内容・深度が異なります。

階級が上がるほど責任が増し、次のようなチカラが求められます。

- 自らを律し、学び続ける力
- 管理する力
- 人を動かす力
- 時代の変化に対応できる力
- 危機に対応できる力
- 先をよむ力



各階級の立場・役割を掲載

6 | 知っておこう！ 階級ごとの立場・役割

① 巡査部長の立場・役割

業務部隊員として業務を推進	第一線の現場において、直接市民と接しながら仕事を進めていくことから、市民自らの警察活動を実施する必要がある。 ①②③ 市民の要望・意見を丁寧に聴取し、組織を挙げて警察活動に反映させる。
係長の補佐	円滑な係運営に積極的に関与することが求められており、業務多忙な係員の代わりとして係長を補助する。 ①②③ 係長の意を配り、係長と係員のとのパイプ役となり、良通しのよい職場環境の構築に努める。
部下の指導・育成	部下の育成については、人的基盤を強化する上で特に重要な役割であることをよく認識し、特に若手警察官の早期育成に努める。 ①②③ 指導を徹底させ、職務に専念につなげるよう、熱意と工夫を持って実施する。

② 警部補の立場・役割

プレイヤーとしての執行力	特に警察官における警部補は、第一線で担当する警務業務を部下と共に遂行するプレイヤーという立場で係の目標を達成することが求められる。業務実績向上のキーマンの存在。 ①②③ 知識、技術、技能のどれをとっても、部下を指導できるようなノウハウの蓄積と、積極性を要する。
マネージャーとしての業務管理	係長として、業務を管理し、上司を補佐し、部下を指導教育するマネージャーという立場であり、また、職場の責任者として、部下の能力・チームとしての能力を最大限発揮させ、市民のためになる成果を上げなければならない。 ①②③ 柔軟な発想により、個々の業務の合理化・効率化を図るなど、働き方改革を推進し、働きやすい職場環境の構築に努める。
他の課・係との業務調整	組織の目標達成のための業務推進に役立つ情報等を、他の課・係と連携して共有する。 ①②③ 他課の係長等と円滑な調整、連携、協力に向けて、良好な人間関係の構築や円滑な業務の推進に努める。

「管理論文って

どんな試験？」

「何を書けばいいの？」

「答案の書き方は？」

そんな疑問を
カンタン解決！

本書の使い方	02
職務倫理の基本	06
はじめての管理論文	07

巡査部長

 1位	01 若手警察官育成の重要性と具体的方策	20
 2位	02 巡査部長の立場と役割、心構え	22
 3位	03 非違事案の防止	24
 4位	04 身上把握・指導の徹底	26
 5位	05 年上の部下に対する指導教養	28
	06 部下に対する指導教養(拳銃の管理)	30
	07 ハラスメントの未然防止	32
	08 士気高揚と厳正な規律の保持	34
	09 殉職・受傷事故の絶無	36
	10 実績向上方策	38
	11 リカバリー教養	40
	12 警察情報の流出・漏えい防止	42

警部補

 1位	01 業務上の非違事案防止	46
 2位	02 非違事案に係る前兆事案把握時の対応	48
 3位	03 パワー・ハラスメント防止	50
 4位	04 警部補の立場と役割	52
 5位	05 若手警察官の事態対処能力の向上方策	54
	06 実績低調者に対する指導教養	56

07	職務倫理教養	58
08	効果的な身上把握・指導	60
09	高い規律と士気を有する職場環境の構築	62
10	ワークライフバランスの実現	64
11	部下職員の健康管理対策	66
12	採用試験受験者の募集活動	68

警部

🏆 1位	01	ワークライフバランスの推進	72
🏆 2位	02	働き方改革	74
🏆 3位	03	業務の効率化・合理化	76
🏆 4位	04	ハラスメント防止対策	78
🏆 5位	05	セクシュアル・ハラスメント事案認知時の措置	80
	06	非違事案の防止方策	82
	07	非違事案認知時の措置	84
	08	良好な職場環境づくり	86
	09	勤務意欲に欠ける中高年警察官の指導方策	88
	10	課内における士気の高揚と実績向上方策	90
	11	警部としての資質と能力	92
	12	適切な報道対応	94





職務倫理の基本

(警察職員の職務倫理及び服務に関する規則 2 条 2 項)

- 1 誇りと使命感を持って、
国家と国民に奉仕すること。
- 2 人権を尊重し、公正かつ親切に
職務を執行すること。
- 3 規律を厳正に保持し、
相互の連帯を強めること。
- 4 人格を磨き、能力を高め、
自己の充実に努めること。
- 5 清廉にして、
堅実な生活態度を保持すること。

はじめての管理論文

1 | 管理論文ってなに？

まずはじめに……

昇任試験は、落とすためのものではなく、
「誰を昇任させるか」を判断するものです。

警察組織の期待

「将来の警察を担う幹部を昇任させたい」
「1人でも多く上位の階級に昇任してほしい」

論文試験は、基本4法、実務科目もありますが、管理論文とは、
警察組織の課題・目標について、
「幹部として何をすべきか」という切り口で
受験者の知識・考え方・意気込みを書かせるものです。

階級ごとに、求められる答案の内容・深度が異なります。

階級が上がるほど責任が増し、次のようなチカラが求められます。

- 自らを律し、学び続ける力
- 管理する力
- 人を動かす力
- 時代の変化に対応できる力
- 危機に対応できる力
- 先をよむ力



各階級の役割 (詳細はp17~p18参照)

巡査部長：実働の中核。現場の最前線で、自らが手本となって、部下に実戦的な指導・監督を行う。現場への指示を伝え、現場の要望を上げるパイプ役でもある。

警部補：プレイングマネージャー。各課（係）間の調整役。中間幹部として現場の責任者でもあり、実働的な面で部下を直接指導・監督もする。担当係レベルでの人事管理・業務管理上の責任も有する。

警部：警察署の課長。警察署長を補佐し、署の運営方針に基づき部下を動かして、課の目標を達成していく。部下の人事管理・業務管理上の要となるだけでなく、部外・対外的な連絡調整・交渉を行う点でも重要な階級である。

Point!

ここがポイント



ここに挙げたことが「今すぐできるから」合格するものではありません。上を目指して努力することが大切であり、部下を指導・監督しつつ自らも学んで自己を高めることで、真に幹部として機能するのです。

求められる幹部

- 将来を期待される知識・技能がある
- 人格・識見ともに優れている
- 現状に甘んじることなく勉強を続けていく
- 社会情勢に的確に対応する
- 強靱な体力・精神力がある
- 強い責任感・使命感がある

上を目指すという
熱意を込めて
書きましょう。



巡查部長



1

若手警察官育成の重要性と 具体的方策

問

巡査部長として、若手警察官育成の重要性と具体的方策について述べなさい。

加点につながる空欄を埋めて覚えよう

答案例

1 はじめに

現在、若手警察官の指導育成による早期戦力化は必要不可欠であることから、指導育成に当たっては、若手警察官育成の重要性を十分理解した上で、実務能力の向上を図っていかなければならない。

2 若手警察官育成の重要性

(1) ① 低下の防止

若手警察官の早期育成を図ることで(①)の低下を防止し、複雑化、広域化する犯罪や、住民の多様なニーズに迅速かつ適切に対応する。

(2) ② を理解した指導育成

一人一人の能力・個性を把握して指導を実施することはもちろんのこと、若手警察官一般に共通する(②)を理解して育成をしていく必要がある。

3 若手警察官に共通する特性

(1) 叱られることに慣れていない

- ミスをした場合には、それを隠そうとして嘘をつく、報告をしないなどの自己保身に走る。
- 虚偽公文書作成などの重大な非違事案を招くおそれがある。

(2) ③ が希薄である

警察組織の一員であるという意識が未熟であるため、私生活において、非違事案を起こす危険性が大きい。

(3) 指示待ちの傾向が強い

言われたこと以外はなかなか実行しない。

4 若手警察官育成の具体的方策

(1) 個性を尊重した指導

育ってきた環境によって個性は異なることを認識し、部下の人柄に合わせた指導を行う。

(2) ④ に合わせた指導

部下によっては一度の指導で学習する者もいれば、何度も経験しないと習熟しない者もいることを認識し、(④) に合わせた指導を行う。

(3) 報告、連絡、相談のしやすい環境の醸成

- パワー・ハラスメントと受け取られるような指導方法は、恐怖心と反発心しか生まないということを得る。
- 叱責するだけでなく褒めることも必要であることを認識し、報告、連絡、相談のしやすい環境を醸成する。

(4) ⑤ の指導教養

様々な現場を想定したロールプレイング方式等による実戦の訓練を繰り返すなど、(⑤) の指導教養を行う。

(5) 各種書類作成能力の向上

事案取扱い時の捜査書類等の作成に際しては、根気強く指導を行い作成能力の向上に努める。

(6) 術科訓練の強化

現場において積極的な職務執行を行うための各種術科訓練を強化し、若手職員の職務執行能力の向上と受傷事故防止を図る。

(7) ⑥ の推進

失敗を恐れるあまり、適切な職務執行を躊躇ちゆうちゆうすることのないよう、必要なリカバリーの知識を習得させ、積極的な職務執行を行わせる。

(8) 現場における同行指導の強化

積極的に現場への同行指導を行い、若手警察官の自信につながる職務執行を経験させる。

(9) ③ の醸成を図る

- 積極的に声を掛け、孤立させることなく、若手警察官一人一人が組織の一員として重要な存在であることを意識づける。
- 仕事以外でも、社会奉仕活動等へ一緒に参加することを促すなどして、連帯感を高める。

5 おわりに

若手警察官の育成は、全国警察にとって喫緊きつぎんの課題であり、一番身近で若手警察官と接する巡査部長の役割は重大である。巡査部長として、このことを肝に銘じて、自らも常に自己研さんに励み、能力を高め、何事にも率先垂範そつせんすいはんすることで若手警察官に見本を示すとともに、指導育成を行っていく所存である。

解答例 □にはいる重要キーワードはコレ！

現場執行力 ① 特性 ② 清意識 ③ 認識 ④ 指導教養 ⑤ 職務訓練 ⑥ 推進 ⑦ 術科訓練 ⑧ 報告、連絡、相談のしやすい環境の醸成 ⑨

警部補



1

業務上の非違事案防止

問

全国において、捜査書類の紛失、証拠品の紛失、不適正捜査等、業務上の非違事案が依然として発生している状況にある。

そこで、警察署の警部補として、業務上の非違事案を防止するための具体的方策について述べなさい。

加点につながる空欄を埋めて覚えよう

答案例

1 はじめに

警察職員による非違事案は国民の期待を裏切ることになり、特に業務上の非違事案については、幹部の指導監督責任も追及され警察全体の信頼を損なうことにもなることから、その未然防止には万全を期さなければならない。

2 業務上の非違事案防止の重要性

(1) 警察業務の ①

警察官は法の執行者であることから、業務上の些細な非違事案であっても、国民の人権に重大な影響を及ぼすこととなる。

(2) 刑事司法に対する ②

捜査に関する非違事案は、公判に影響を及ぼすとともに、国民だけでなく裁判所や検察庁等の関係機関の警察に対する信頼も失墜させることとなる。

(3) ③

非違事案が発生すると、職員の士気の低下を招くこととなり、国民の期待する警察活動の遂行が困難となる。

3 業務上の非違事案の要因

(1) 職員の資質・④

- 職員自身が、職務上の基本事項について正しく認識していない。
- 職員の業務遂行能力が不足している。

(2) 指示・命令等の不徹底

- 非違事案の未然防止に係る指示等について、他人事ひとごとであると思っている職員が多く、個々の意識に浸透していない。
- 業務負担の増加などを理由に、非違事案防止のための職場教養が形式的・画一的なものとなっている。

4 業務上の非違事案を防止するための具体的方策

(1) ⑤

職務上の基本とされている事項を正しく認識させ、これを忠実に守らせるための指導教養を徹底する。

(2) ⑥ のある教養の実施

過去に発生した業務上の非違事案をもとに、職員個々に危機意識を持たせるとともに自ら考えさせる教養を実施する。

(3) 捜査対象者等との癒着防止対策

捜査対象者等との接触に際しては、事前の接触伺いと接触後の報告を徹底させるなど、幹部によるチェック機能を働かせ、捜査の公正性を担保する。

(4) 積極的な ⑦

幹部は把握した業務上の問題点を放置せず、必要に応じて業務を見直すなど諸事情に応じた業務改善を行い、業務上の非違事案の防止に努める。

(5) ⑧ の実施

○ 職務を執行する上での失敗は、誰にでも起こり得るものであることを幹部自らが認識する。

○ 過失による失敗は原則として処分されないことを浸透させるとともに、平素から報告、連絡、相談をしやすい環境を醸成^{じょうせい}するよう努める。

5 おわりに

警部補として、非違事案の未然防止が幹部に与えられた極めて重要な業務であるとの認識を持ち、特に業務上の非違事案は、的確な業務管理・人事管理を行うことにより未然に防止することができるということを銘記し、業務上の非違事案を絶対に発生させないとの確固たる信念を持って、全力で取り組んでいく所存である。

解答例 □にはいる重要キーワードはコレ！

① 特殊性 ② 影響 ③ 士気の低下 ④ 能力不足 ⑤ 基本の厳守 ⑥ 業務改善 ⑦ カリカバリー教養 ⑧ 実効性

警部



1

ワークライフバランスの推進

問

警察署の警務課長として、職員のワークライフバランスを推進するため、警察署において実施すべき方策について述べなさい。

加点につながる空欄を埋めて覚えよう

答案例

1 はじめに

官民を挙げて働き方改革が進められている中で、近年、仕事と生活の間で問題を抱える者が増加している。これは警察組織においても例外ではなく、このような問題を解決し、職員一人一人がその能力を十分に発揮できるような環境づくりを進めることが強い組織をつくる上で極めて重要である。

2 ワークライフバランスを実現するための具体的方策

(1) ①

ワークライフバランス実現のためには、組織全体において「ワークライフバランスは、特殊な職務である警察での実現は無理」等といった先入観を排除し、仕事と家庭の両立に向けた意識改革を図る。

(2) ②

全職員の意識改革のためには、幹部自らがワークライフバランスを体現するほか、ワークライフバランスの推進に資する効率的な業務管理や良好な職場環境づくりに向けて率先して行動する必要がある。

(3) 休暇等の取得における ③

皆で仕事をカバーし合うことを前提として、職員相互の理解と協力を図る。

(4) ④

- 業務の質及び量、進め方等は課ごとに異なることから、課員から直接意見を聴取するなどして改善すべき点を把握し、その解消に努める。
- 日頃から職員の業務量及び進捗^{しんぱく}状況を把握し、特定の職員に業務が偏らないよう業務の見直しや効率化を常に考え、適正な業務管理に努める。

(5) ⑤

子育てや介護に携わる職員が増加する中で組織力を維持するためには、働く時間や場所の柔軟化が重要である。

(6) 時間外勤務の縮減と ⑥

- 安易に時間外勤務や休日勤務を命じることがないように、職員の勤務制に

じて勤務指定の変更、振替や時差出勤等により業務を管理し、時間外勤務を縮減する。

- 有給休暇の取得促進に向けた取組を積極的に実施する。
- 適宜業務の割振りを見直すなど職員への支援体制を構築し、計画的な連続休暇の取得を職員に啓発する。

(7) ⑦

- 職員が家庭生活への関わりを深めることが重要である。
- 幹部は、子育てや介護を担う職員の状況を把握し、各職員を支援するよう努める。

(8) ⑧ 等の取得

出産・育児に係る各種休暇や時差出勤、子供の看護休暇を始め、男性職員の育児休暇等の取得を推進する。

(9) ⑨ に向けた環境づくり

子育て中の(⑨)に対する理解を深めるよう周知徹底を図り、女性職員が職場で活躍できる雰囲気と環境づくりに努める。

(10) ⑩ 対策の推進

- ストレスチェックの実施等による組織的な健康管理対策を推進する。
- 個人的な相談がしやすい環境を整え、職員の不安・悩みごとの解消に向けたサポート体制の充実を図る。

3 おわりに

警察署の警務課長として、ワークライフバランスが組織の人的基盤を支える重要課題であることを強く認識するとともに、ワークライフバランスの重要性に係る正しい理解と更なる働き方改革を推進していく所存である。

解答例 □にはいる重要キーワードはコレ！

- ⑩ 組織的な健康管理
- ⑦ 身上把握の徹底
- ⑧ 男性職員による育児休業
- ⑥ 女性職員の活躍促進
- ④ 業務管理の徹底
- ⑤ 勤務態様の柔軟化
- ⑨ 勤務環境の見直し
- ① 組織全体における意識改革
- ② 幹部の意識改革
- ③ 職員相互間の理解と協力